

酔、精神安定薬または動物の物理的保定を利用するなどの注意をしなければならない。物理的保定は、霊長類の取り扱いについて十分な知識を持ち、熟練した職員が行わなければならない。また、単独で作業中の者は決して行ってはならない。

5. 潜在的に汚染された注射針、メスその他の鋭利な器具の使用により、職員が怪我をしたり、感染性物質が動物から動物へ拡がらないように用心しなければならない。特にこれらを処分する際に注意が必要である。注射器や注射針、メス刃及びその他の鋭利な物品はディスプレイの製品のみを使用しなければならない。これらの物品は、再びキャップをはめたり、曲げたり、破壊したり、その他の手による取り扱いを決して行ってはならない。これらは作業場近くに保管された穴の開かない容器の中に廃棄しなければならない。容器は処分する前に汚染除去しなければならない。

6. 使用する物質あるいは薬物のバイアルが複数回分の用量入りの場合、使用の間にバイアルおよびその内容物を汚染しないように注意しなければならない。

7. 死亡した動物は密封された、不透過性で漏れない容器または袋を用いて動物繋留室から搬出し、専用の剖検室に収容しなければならない。

8. 検疫所の責任者(responsible quarantine officials)は、検疫を受けている霊長類に重篤な、および / または異常な疾病と死亡が発生した場合、その旨を政府機関に直ちに届け出なければならない。

9. 動物が検疫エリアから退去した後、その部屋に伝染病が存在したか否かに係わらず、動物繋留室を徹底的に汚染除去する必要がある。

補遺 4.1.1

狂犬病に汚染されている国で生産された犬および猫のための

モデル国際獣医学的証明書

I. 飼い主

住所および氏名：

II 動物に関する記述

動物種：

年齢または生産の日：

性別：

品種：

毛色：

被毛のタイプ及び模様 / 際だった特徴：

個体識別番号 (入れ墨またはその他の永久的な識別法による) (注 1 参照)

III 付加的情報

生産国：

過去 2 年間に訪れたとして飼い主が申告する国 (日付を明記のこと)：

IV ワクチネーション (狂犬病)

下に署名した私は、IIに記載された動物に対し、下記の通り狂犬病ワクチンを接種したことをここに宣言する。当該動物は接種当日、健康であることが認められた。

(別紙の表 4.1.1.IVを参照)

V 血清学的検査 (狂犬病)

下に署名した私は、IIに記載された動物から血液サンプルを採取した。これについて中和抗体滴定試験(neutralizing antibody titration test)を実施した公的検査機関(official diagnostic laboratory)から、下記の結果を得たことをここに宣言する(注4参照)。

(別紙の表 4.1.1.Vを参照)

VI 臨床検査 (狂犬病)

下に署名した私は、IIに記載された動物を下記の年月日に検査し、臨床的に健康と認めたことをここに宣言する(注5参照)。

(別紙の表 4.1.1.VIを参照)

注

1. 証明書に記載された個体識別番号は、動物の身体に認められるものと同一の番号とする。電子的識別法を利用する場合、マイクロチップのタイプと製造者の名称を明記するものとする。
2. 犬及び猫の国際的移動のために公認されているワクチンは不活化ワクチンのみである。
3. 初回接種の場合、動物は輸入国へ導入される前6カ月を超え、1年を超えない期間内にワクチン接種を受けていなければならない；ワクチン接種時、動物は少なくとも3カ月

齢に達していなければならない。

追加接種の場合、動物は輸入国へ導入される前1年を越えない期間内にワクチン接種を受けていなければならない。

4. 動物が輸入国へ導入される前3カ月を超え、24カ月を超えない期間内に中和抗体滴定試験が実施されなければならない。試験は輸出国の、管轄権を持つ当局(Competent Authority)によって承認された公的検査機関によって実施されるものとする。動物の血清は少なくとも0.5国際単位(IU)/mlを含有していなければならない。

5. 証明書のVIで言及されている臨床検査は発送の48時間以内実施するものとする。

輸入国における、管轄権を持つ当局(Competent Authority)は、上記の条件のいずれかに合致しない動物を、その領域内に設置された検疫所に収容することを要求できる；検疫所に留めおく際の諸条件は輸入国の立法によって規定される。

6. 証明書に氏名が記載され、これに署名した獣医師が公務員でない場合、当該獣医師の署名は、それと関連のある欄に公務員である獣医が署名し、印を押すことで、有効であることが認められなければならない。'Official Veterinarian'とは、公務員(civil service)である獣医師、または特に指名され、その国の政府機関から権限を授与された獣医師を指す。

7. 証明書は要求があれば、輸入国の言語で作成されなければならない。この場合、証明書は証明する獣医師が理解できる言語でも作成されなければならない。

表4.1.1.

表4.1.1.Ⅳ ワクチネーション

ワクチン接種日 (年月日)	不活化ワクチンの名称 (注2参照)	1. 製造所 2. バッチ番号 3. 有効期限	獣医師の氏名(大文字)と署名 (注6参照)
		1.	
		2.	
		3.	

国際的移動のために、ワクチネーションが有効である期間 (注3参照)		公務員である獣医師の氏名(大文字)と署名
年月日から	年月日まで	

表4.1.1.Ⅴ 血清学的検査

検体採取日(年月日)	公的検査機関の名称と所在地	抗体滴定試験の結果(国際単位 [IU]/ml)	獣医師の氏名(大文字)と署名 (注6参照)

国際的移動のために、血清学的検査の結果が有効である期間 (注3参照)		公務員である獣医師の氏名(大文字)と署名
年月日から	年月日まで	

表4.1.1.Ⅵ 臨床検査

年月日	獣医師の氏名(大文字)と署名 (注6参照)	公務員である獣医師の氏名(大文字)と署名

補遺 4.1.2

飼養されている、または野生の牛、水牛(bubaline)、めん羊、山羊または豚のた

めのモデル国際獣医学的証明書

輸出国：

省：

局：

州または地区等：

I 動物の個体識別

(別紙の表 4.1.2.1を参照)。

II 動物の由来(origin)

輸出者の名称と所在地：

動物の生産地(place of origin of the animal/s)：

III 動物の仕向地

仕向国：

引受人の名称と所在地：

輸送手段の種類と同一性の確認(identification)：

IV 衛生に関する情報

末尾に署名した公務員である獣医師は、上に記述され、この年月日に検査された動物について、以下のことを証明する：

a) 疾病の臨床的徴候を示していないこと；

b) 以下の要求を満たしていること；**

公印：

発行地

発行日

獣医師の氏名と所在地

署名

* 繁殖用の動物においては証明書を個体別に作成することが勧められる。

** これらの条件は、規約(Terrestrial Code)に規定されているオプションに従い、輸入国と輸出国の行政組織(Veterinary Services)間で合意されたものである。

補遺 4.1.6

鳥類に関する国際獣医学的証明書モデル

輸出国：

省：

局：

州または地区等：

I 鳥の個体識別

(別紙の表 4.1.6.1を参照)

II 鳥の由来(origin)

輸出者の名称と所在地：

鳥の生産地(place of origin of the animal/s)：

III 鳥の仕向地

仕向国：

引受人の名称と所在地：

輸送手段の種類と同一性の確認(identification)：

容器のタイプ：

IV 衛生に関する情報

末尾に署名した公務員である獣医師は、上に記述され、この年月日に検査された鳥について、以下のことを証明する：

a) 疾病の臨床的徴候を示していないこと；

b)以下の要求を満たしていること：*

公印：

発行地	発行日
獣医師の氏名と所在地	
署名	

* これらの条件は、規約(Terrestrial Code)で規定されているオプションに従い、輸入国と輸出国の行政当局(Veterinary Services)間で合意されたものである。

表4.1.2. I

I 動物の個体識別

公式の耳標	品種	性別	年齢

表4.1.6. I

I 鳥の個体識別

番号	標識	種	性別	年齢

20030527

以降は、雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
下記の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

「研究成果の刊行に関する一覧表」

A patient with Crimean-Congo hemorrhagic fever serologically diagnosed by recombinant nucleoprotein-based antibody detection systems.

Tang Q, Saijo M, Zhang Y, Asiguma M, Tianshu D, Han L, Shimayi B, Maeda A, Kurane I, Morikawa S.

Clin Diagn Lab Immunol. 2003 May;10(3):489-91.

Detection of immunoglobulin G to Crimean-Congo hemorrhagic fever virus in sheep sera by recombinant nucleoprotein-based enzyme-linked immunosorbent and immunofluorescence assays.

Qing T, Saijo M, Lei H, Niikura M, Maeda A, Ikegami T, Xinjung W, Kurane I, Morikawa S.

J Virol Methods. 2003 Mar;108(1):111-6.

Analysis of linear B-cell epitopes of the nucleoprotein of ebola virus that distinguish ebola virus subtypes.

Niikura M, Ikegami T, Saijo M, Kurata T, Kurane I, Morikawa S.

Clin Diagn Lab Immunol. 2003 Jan;10(1):83-7.

nef gene is required for robust productive infection by simian immunodeficiency virus of T-cell-rich paracortex in lymph nodes.

Sugimoto C, Tadakuma K, Otani I, Moritoyo T, Akari H, Ono F, Yoshikawa Y, Sata T, Izumo S, Mori K.

J Virol. 2003 Apr;77(7):4169-80.

Modification of the leukapheresis procedure for use in rhesus monkeys (*Macaca mulata*).

Ageyama N, Kimikawa M, Eguchi K, Ono F, Shibata H, Yoshikawa Y, Terao K.

J Clin Apheresis. 2003;18(1):26–31.

Retroperitoneal fibromatosis in a cynomolgus monkey (*Macaca fascicularis*)

Yanai T, Teranishi M, Takaoka M, Manabe S, Sakai H, Masegi T, Yoshikawa Y.

J Toxicol Pathol. 2003;16:117–121.

Spontaneous T-cell-rich B-cell lymphoma in a cynomolgus monkey (*Macaca fascicularis*).

Michishita M, Nakamura S, Sakakibara I, Ono F, Fujimoto K, Kamiya K, Ishii Y, Hayashi K, Yoshikawa Y, Takahashi K.

Exp Anim. 2003 Jul;52(4):339–44.

Molecular evolution inferred from immunological cross-reactivity of immunoglobulin G among Chiroptera and closely related species.

Omatsu T, Ishii Y, Kyuwa S, Milanda EG, Terao K, Yoshikawa Y.

Exp Anim. 2003 Oct;52(5):425–8.

Possible role of genetic factor(s) on age-related increase of peripheral CD4+CD8+ double positive T cells in cynomolgus monkeys.

Lee WW, Nam KH, Terao K, Yoshikawa Y.

Exp Anim. 2003 Jul;52(4):309–16.

Molecular cloning, functional characterization, and enzyme-linked immunosorbent assay of cynomolgus monkey Fas ligand.

Kirii Y, Inoue T, Yoshino K, Kayagaki N, Yagita H, Okumura K, Shibata H, Yoshikawa Y, Terao K.

J Immunol Methods. 2003 Jul;278(1–2):201–9.

Primary culture of cortical neurons, type-1 astrocytes, and microglial cells from cynomolgus monkey (*Macaca fascicularis*) fetuses.

Negishi T, Ishii Y, Kyuwa S, Kuroda Y, Yoshikawa Y.

J. Neurosci Methods. 2003 Dec 30;131(1-2):133-40.

Immunoglobulin G enzyme-linked immunosorbent assay using truncated nucleoproteins of Reston Ebola virus.

Ikegami T, Saijo M, Niikura M, Miranda ME, Calaor AB, Hernandez M, Manalo DL, Kurane I, Yoshikawa Y, Morikawa S.

Epidemiol Infect. 2003 Jun;130(3):533-9.

Antigen capture enzyme-linked immunosorbent assay for specific detection of Reston Ebola virus nucleoprotein.

Ikegami T, Niikura M, Saijo M, Miranda ME, Calaor AB, Hernandez M, Acosta LP, Manalo DL, Kurane I, Yoshikawa Y, Morikawa S.

Clin Diagn Lab Immunol. 2003 Jul;10(4):552-7.

動物園動物および野生動物の感染症 (特集)速報、動物園および野生動物の感染症 2002

柳井徳磨, 杉山誠, 平田暁, 酒井洋樹, 柵木利昭, 吉川泰弘

Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine. 8 巻 1 号

Page1-10(2003.03)

サル類における抗酸菌症の病理 (特集)サル類の結核症

柳井徳磨, 後藤俊二, 杵野弥生, 平田暁大, 酒井洋樹, 柵木利昭, 吉川泰弘

Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine. 8 巻 1 号

Page41-48(2003.03)

動物由来感染症への対策

吉川泰弘

MEDICO. 34 巻 4 号 Page155-160(2003.04)

Bウイルス病 (特集)理解して実践する 感染症診療・投薬ガイド 疾患各論 4 類感染症(全数把握)

吉川泰弘

総合臨床. 52 巻増刊 Page1157-1162(2003.03)

人獣共通感染症とわが国の問題点

吉川泰弘

Medical Pharmacy. 37 巻 4 号 Page108-117(2003.07)

ハンタウイルスと急性腎障害

吉川泰弘

Medical Technology. 31 巻 9 号 Page936-937(2003.09)

プレーリードッグ媒介感染症

吉川泰弘

ラジオたんぱ「アボット感染症アワー」放送内容集. (2003.04)

人と動物の共通感染症 (特集)感染症の過去から未来を見つめて

吉川泰弘

日本医師会雑誌. 130 巻 9 号 (2003.11)

トキソプラズマ原虫感染における Toll-like receptor 4 の役割. (特集) TLR の感染と病態における意義

古田隆久, 菊地たかね, 吉川泰弘

臨床免疫. 40 巻 3 号 Page237-241(2003.09)

エボラ出血熱とマールブルグ病 (特集)人獣共通感染症

吉川泰弘

畜産の研究. 58 巻 1 号 Page49-54(2004.01)

Bウイルス感染症 (特集)人獣共通感染症

吉川泰弘

畜産の研究. 58 巻 1 号 Page55-58(2004.01)

文献 (2003 年)